



元町だより

令和8年度
9月号

自分ができることを考える

文京区立認定こども園元町幼稚園
園長 前田 宏子

今年の夏は自然災害が続いています。熊本の地震や千葉の大雨、続いて石川・富山、福井にも大雨が降りました。また、世界を見るとネパールでは大規模な洪水に見舞われ、大変な被害が出ているようです。災害によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。様々な自然災害が世界各地で起こっています。自然災害はいつ、どんなときにやってくるかは分かりません。どんなに精巧な機械ができて、どんなに研究が進んだとしても100パーセントの予報などはないでしょう。温暖化の影響とも言われ、“今までにない”という枕詞がつく災害が増えているように思います。いつ来るか分からない災害から自分の身を守ることを考えるとともに、日本全体、世界規模で自分たちの住む場所を守る行動を考えていくことが必要になっています。

幼稚園では少なくとも月1回の避難訓練をしています。1歳児から5歳児までが皆で訓練をします。大人も子どもも自分の力で自分の身を守ることが大切です。そのためにはどうすればよいかを確認します。訓練は繰り返し大切です。何度も訓練をしている子どもたちは「地震だ」と言われれば、頭を守り、「火事だ」と言われれば、ハンカチで口と鼻を押さえる動きが自然に出てくるようになりました。

（避難訓練の詳細は園だより「ほっと元町」をご覧ください）今月は文京区の幼・小・中学校の一斉の引き渡し避難訓練があります。年1回ですが、この機会を大切にしたいと思います。

私はこの夏に受けた研修でこれからの自分たちが住む場所を守るため、ひいては自然を守るためにどうしたらよいかと考えさせられました。テーマは木育でした。研修の最初に木のキーホルダーを作りました。木端を紙やすりで削り、形を整え、自分の気に入った形にしたり、絵を描いたりして楽しみました。その時、いろいろな種類の木端があったのですが、紙やすりで削るとほのかに香りがしてきます。そして、種類ごとに香りが違うことが分かるのです。頭では分かっていたつもりでしたが、いくつかの香りを一緒に嗅ぐことができると、その違いに驚きました。木の葉は身近にあり、子どもたちと一緒に拾ったり、遊びに使ったりとその違いを知っているつもりでしたが、木の枝や幹に思いをはせることは少なかったように思います。

「幼児期には直接体験が大切」と日ごろから保護者の方にお話をしていましたが、大人だって直接体験が大切だと感じました。頭で分かっていることと五感で感じることは違うものなのだと思います。研修では木のキーホルダーを作った後に、森林を守る話をお聞きました。私たちが住む東京の水がめといわれる場所の木々の話でした。私たちの生活を守ることは遠くの森を守ることとつながっています。そう思うと私にできることは何かないかな？と考えます。よい経験ができたと思いました。

さあ、いよいよ2学期です。子どもたちが自分の五感を使って様々なことにチャレンジできるようにしていきたいと思っています。幼児期はたくさんの情報をもつことよりも、直接体験で心を動かす体験をしてほしいと思います。どうぞ、保護者の皆様も直接体験を大切にしてください！

今学期も様々な行事があります。本園の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。